No.121
令和６年７月12日発行
世田谷区教育委員会

せたがやの教育

特集

令和６年度 教育委員会の予算

世田谷区の手続きや施設・イベント案内は
せたがやコールへ
☎03-5432-3333 Fax 03-5432-3100
（午前８時～午後９時 年中無休）
区ホームページからもお問い合わせいただけます。

教えて！せたがやの星 第25回

バスケットボール選手
井上 宗一郎さん

特集 令和６年度 教育委員会の予算

世田谷区の令和６年度一般会計教育費予算額（教育委員会所管分）は、前年度より52億2,448万４千円増（前年度比16.5%増）の368億8,909万６千円となりました。

令和６年度を初年度とする世田谷区教育振興基本計画（令和６年度～10年度）の教育目標「幸せな未来をデザインし、創造するせたがやの教育」と４つの基本方針「新しい知を創造する」、「地球の一員として行動する」、「多様性を受け入れ自分らしく生きる」、「共に学び成長し続ける」のもと、実施計画（行動計画）に掲げる取組みを着実に推進していきます。

今号では教育委員会の予算の主な項目をお知らせします。

教育費予算（教育委員会所管分）が区の一般会計を占める割合は約9.9%（前年度比1.2%増）

主要事業 「多様な学びの場や居場所の充実」

予算額 １億7,483万３千円

令和６年３月に策定した「不登校支援ガイドライン」に基づき、不登校の未然防止、早期発見・対応、長期化した場合の支援などの取組みを実施します。

ほっとルーム（別室登校） 2,390万３千円

学校に登校しているものの様々な事情から教室に入れず、保健室などの別室を居場所としている児童・生徒への支援を目的として、令和７年度の全区立小・中学校への設置に向け、受入れスペースの確保に係る環境整備を進めていきます。

令和６年度はこれまで設置していた15校から60校へ拡大します。

学びの多様化学校（不登校特例校）分教室「ねいろ」 4,526万１千円

令和４年４月に世田谷中学校の分教室として学びの多様化学校（不登校特例校）分教室「ねいろ」を開設しました。学びや学校生活への意欲が高まってきた子どもたちのための正規の教職員がいる学校です。基礎的な学習を行うほか、一人ひとりのチャレンジ意欲や個性を伸ばす教育活動を行っています。令和６年度から指導体制の充実に向け、区独自採用の教員（会計年度任用職員）を配置します。また、令和７年１月から学びの多様化学校分教室「ねいろ」における給食提供を開始します。

ほっとルームせたがYah!オンライン 866万７千円

令和５年度より、不登校及び不登校傾向のある児童・生徒を対象に、タブレット型情報端末等を利用したオンラインによる支援を実施しています。

令和６年度から新たにメタバース環境を導入し、アバターを活用して、より気軽に参加しやすい環境を整備することで、支援の拡充を図ります。

ほっとスクールの運営等 9,700万円

教育委員会が取り組むその他の主な施策

「学校の設備・改築等」
129億6,542万１千円

- 改築工事（池之上小学校）
- 一部改築工事（瀬田小学校・八幡中学校）
- 改築工事に伴う基本設計、実施設計（砧小学校・弦巻中学校・奥沢中学校）
- 学級増等に伴う改修
- 普通教室等エアコン更新

など

「教員の働き方改革」
10億5,942万３千円

- 学校教育の質の維持・向上に向けた（仮称）学校における働き方改革アクションプランの策定
- 部活動の地域移行に向けた取組み
  部活動地域移行トライアル事業の拡充
  部活動支援員の謝礼増額

「小・中学生の国際交流」
5,090万２千円

- 「日本でできる国内留学プログラム」対象学年の拡充
  令和５年度：小学校５・６年生
  中学校２・３年生
  計140人
  ↓
  令和６年度：小学校５・６年生
  中学校１・２・３年生
  計160人
- 小・中学生姉妹都市交流事業（バンバリー市、ウィーン市ドゥブリング区、ウィニペグ市）

「DX推進方針等に基づく主な取組み」
13億2,140万５千円

- 統合型校務支援システムの利便性の向上による子どもと向き合う時間の拡充
  （中学校へのデジタル採点システムの導入、感染症システムとの連携　など）

「教育総合センターの運営」
１億2,924万８千円

- STEAM講座を各学校において総合的な学習の時間等にて実施
  （小学校８校、中学校４校）
- 青少年交流センターにおけるSTEAM教育出前講座の実施
  （実施場所　３施設）
- 令和６年４月から日曜開館の実施
  （開館エリア　えがおの森、屋外広場、研修室）

「学校給食費等保護者負担の軽減」
33億1,545万６千円

「教育相談・特別支援教育の推進」
８億4,857万６千円

「みどりのまちづくり」
（幼稚園・小学校・中学校の緑化）
5,222万３千円

問 教育総務課　☎5432-2745 FAX 5432-3028

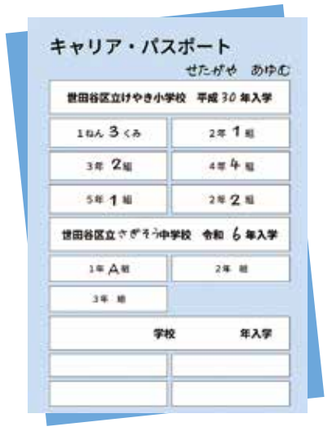
キャリア教育の推進に向けて

世田谷区で取り組んでいる「キャリア・未来デザイン教育」の大きな柱として、キャリア教育を推進しています。

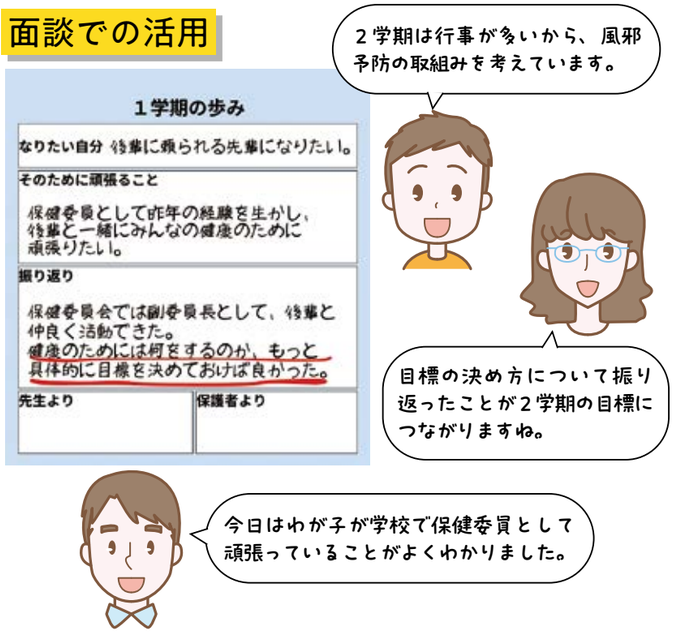
POINT 01 「キャリア・パスポート」で児童・生徒と対話的に関わります

児童・生徒が身につけた力や成長を振り返ることで、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐキャリア・パスポート。周囲の大人がキャリア・パスポートに書かれていることをもとに紙面でやり取りしたり、直接対話したりすることが大切です。

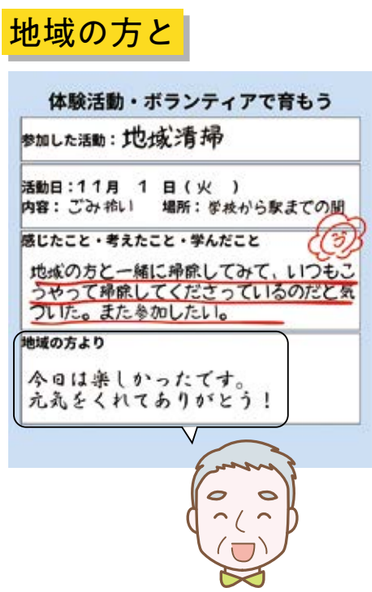
身近な他者である教員や保護者、地域の方が子どもたちの成長を認めることで、児童・生徒が自己肯定感を高め、未来の自分について前向きに考えることができます。



面談での活用



地域の方と



参考：キャリア教育リーフレットシリーズ　キャリア・パスポート特別編９　国立教育政策研究所（令和４年５月）

POINT 02 キャリア教育推進リーダーの活躍

世田谷区では約10名のキャリア教育推進リーダーが活躍しています。

５月２日には、区内幼・小・中学校の教員を対象に、推進リーダーが講師となって研修会を行いました。

問 教育指導課　☎5432-2706 FAX 5432-3041

教育ＤＸ推進の取組み状況

令和２年度より、区立小・中学校の全児童・生徒に、タブレット型情報端末（iPad）を配備しています。また教員が効果的な指導を行うことができるようネットワーク環境の整備やICT活用能力向上の取組みを推進しています。

教員は子どもたちの様子をiPadで瞬時に入力し、教職員で情報共有をすることで、連続した学びや生活の支援ができるようになりました。

子どもたちが学びの主体として、学習課題に対して、どう学ぶかを自分たちで選択できるようになっています。教室の中では、iPadを使って個人学習に励む子どもや、対話的に学ぶ子どもたちの姿を見ることができます。

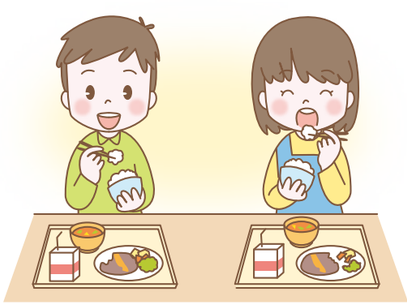
これからも子どもたちの学びをより充実したものとするために、ICT機器を活用してまいります。

問 教育研究・ICT推進課　☎6453-1506 FAX 6453-1534

区立小・中学校における学校給食費無償化の継続

区では、令和５年度にエネルギー価格・物価高騰に対する緊急的な措置として、区立小・中学校における学校給食費無償化を実施し、学齢期の子どもがいる保護者の負担軽減に取り組んでまいりました。

現在も物価の高止まりが続いているほか、子育て世帯への経済的支援や、義務教育の無償化を進めるといった観点から、国が無償化を実施するまでの間、令和６年度以降も区立小・中学校に在籍する児童・生徒を対象とした学校給食費無償化を継続していきます。



問 学校健康推進課　☎5432-2697 FAX 5432-3029

川場村産木材利用の推進

世田谷区と群馬県川場村では、昭和56（1981）年に「区民健康村相互協力に関する協定」を締結しており、現在、区立小学校５年生を対象に川場村移動教室を行っています。

令和５年度、川場小学校との交流40周年を迎えた千歳台小学校では、クラス増等の改修工事にあわせ、仕上げ材の一部に川場産木材を利用しました。

今後、他の小学校においても改修工事の機会を捉え、川場村産木材利用の推進を図ります。

千歳台小学校
体育館トイレ前

千歳台小学校
体育館内の柱

問 教育環境課　☎5432-2722 FAX 5432-3029

区立小・中学校トイレへの生理用品の設置

世田谷区立小・中学校では、在籍する児童・生徒が必要な時に自由に使用できるよう、トイレに生理用品を設置しています。

設置イメージ

設置場所

校内女子トイレ内個室や共用部分など女子児童・生徒が利用する場所（設置状況は学校によって異なります。）

問 学校健康推進課　☎5432-2693 FAX 5432-3029

せたがやコンパスガイド

区では、乳幼児教育・保育施設において大切にしたいことや基本的な方針を示す羅針盤として「世田谷区教育・保育実践コンパス」を令和３年12月に作成しました。

これを広く保護者や地域の皆さまと共有するため「せたがやコンパスガイド～世田谷区教育・保育実践コンパス　保護者版～」を作成しましたので、ぜひご覧ください。

詳細につきましては、
二次元コードよりご確認ください

せたがやコンパスガイドは、教育総合センター、各総合支所、まちづくりセンターにて配架しているほか、区ホームページからもご覧いただけます。

問 乳幼児教育・保育支援課　☎6453-1531 FAX 6453-1534

info

郷土資料館特別展 成城100年の歩み（仮）

開催期間　令和６年10月26日（土）～12月16日（月）
入場無料

郷土資料館では毎年秋に特別展を開催しています。今回は区内でも住宅地として知名度の高い成城に焦点をあてます。成城のまちづくりに大きな影響を与えた**1.成城学園の移転、2.小田急線の開通、3.東宝撮影所**の３つをテーマとして、まちの移り変わりや暮らしの視点から成城の歴史を紹介します。ぜひお越しください。

成城の桜と銀杏並木

1.成城学園の移転

雑木林だった土地は、学園都市として生まれ変わりました。

2.小田急線の開通

昭和２年（1927）、小田急線が開通し、成城学園前駅が誕生しました。

3.東宝撮影所

東宝撮影所は周辺住民の大きな働き口でした。

問 生涯学習課　☎3429-4237 FAX 3429-4925

令和６年５月18日付で知久孝之氏が教育長に就任されました。

このたび、令和６年５月18日付で世田谷区教育委員会教育長を拝命しました知久孝之です。世田谷区の教育の発展を担う職責の重さを感じる一方で、生まれ育った世田谷区で、次代を担う子どもたちの学びと成長に関われることに期待を膨らませています。

急激に変化していく時代の中で、子どもたちが、想定外の事態としっかりと向き合い、豊かな人生を自分自身で切り拓いていける資質や能力を育んでいけるよう、世田谷区の教育の充実に全力で取り組んでまいります。

令和６年３月30日付で澁澤寿一氏が教育委員（教育長職務代理者）に再任されました。

教育委員の再任を受けた澁澤です。この10年で学びの在り方は大きく変わりました。教員から生徒への一方的な「教える教育」から、皆が気づき、学び合う「共に学ぶ共育」へ。学ぶ場も、学校の中に留まらず、地域社会、ネットを通して世界中へ・・・そして今、私たち人類は「地球との共存」という大きな課題に直面しています。どこにも答えがない、誰も経験したことのない問題です。世田谷の教育では、大人と子どもが協力して取り組もうとしています。「子どもは未熟な大人ではない」と世田谷区の教育大綱にあるとおり、子どもは未来の担い手であり、人格を持ったパートナーです。区民の皆さんも是非、参加いただき、共に育ちながら未来を切り拓いていきましょう。

編集後記

シーズン最終戦を控えた越谷アルファーズの井上宗一郎選手にインタビューさせていただきました。２ｍを超える身長はバスケットゴールも低く感じ、さらに「自分が下手だと思っているからこそ練習する」「外国人選手にも絶対に負ける気はない」という強い信念を聞かせていただきました。来シーズンのB１昇格も決定し、さらなる活躍に向けて応援しましょう！

「せたがやの教育」は世田谷区HP及び広報紙閲覧サービス「カタログポケット」（多言語翻訳・音声読み上げ機能）で読むことができます。

世田谷区HP　カタログポケット

世田谷区教育委員会
〒154-8504 世田谷区世田谷４-21-27　☎ 5432-1111 ㈹

次号122号は令和６年12月に発行予定です。

下手だと分かっているからこそ向上心をもって練習に臨んでいます

Bリーグ越谷アルファーズ所属の井上宗一郎選手へインタビュー。世田谷区立弦巻小学校・梅丘中学校を卒業され、男子バスケットボール日本代表に選出されています。シーズン最終戦を控えた4月19日にホームアリーナ越谷市立総合体育館にて、これまでのバスケットの経験や今シーズンのチームでのプレーなどについて語っていただきました。今年7月のパリ五輪での活躍が期待されます。

バスケットボール選手
井上 宗一郎さん

Profile
1999年5月7日生まれ。世田谷区立弦巻小学校、梅丘中学校卒業。Bリーグ「越谷アルファーズ」所属。各年代の日本代表に名を連ね、2023年度バスケットボール男子日本代表としてFIBAバスケットボール ワールドカップ2023メンバー12名にも選出される。越谷アルファーズでは2023-24SEASON B1昇格に貢献。恵まれた体格を活かしてゴール下で体を張りつつ、3Pシュートを武器としたパワーフォワードとして活躍している。

遊び感覚で始めたのがきっかけ

―バスケットボールを始めた時のことは覚えていますか。

小学校4年生の時に、友だちから桜小学校のミニバスクラブに誘われて始めました。そのときから身長が高かったのでバスケットは体格を生かせるなと思い、遊び感覚で始めたのがきっかけです。

―弦巻小学校と梅丘中学校を卒業されていますが、印象に残っている思い出はありますか。

中学の頃、バスケ部の部員が18人程いて、よくそのメンバーで遊んでいました。また、当時のバスケ部の顧問の先生や担任の先生には本当にお世話になりました。

―中学3年生の時は全国大会でベスト8となりましたが、試合で印象に残っていることはありますか。

自分たちは予選とトーナメントで優勝校と2回あたりどちらも負けてしまいましたが、大会を通じて自分たちが一番いい試合をしたと思うので、悔いはなかったです。

―卒業後は福岡の大濠高校、大学は筑波大学に進学されましたが、バスケットをする環境はどう変わりましたか。

中学の頃は練習時間も限られ、強豪校と比べると練習時間がなくて、体育館を他の部活と調整して使っていましたが、本当にチームメイトはバスケットを楽しんでいました。高校は皆全国からスカウトで来ていて、練習量も多かったので、とにかくもうやるしかないという感じでした。大学になると自由な時間が増えた分、主体性が大切になり、いろいろなことにチャレンジして失敗しての繰り返しでした。

大事なのは気持ちの部分

―プロバスケット選手として日本代表としても活躍されていますが、その秘訣は何だと思いますか。

自分が上手いとはあまり思ってなく、運がよかった面や恵まれていた部分があったと思っています。自分が下手だと分かっているからこそ、高校生の時から土日や試合後も含めて、ボールに触れない日はないくらい毎日たくさん練習をしました。その結果、今でも自主練を行う癖がついていて、向上心をもって練習に臨んでいます。

―Bリーグや日本代表の試合では身長や体格の大きい外国人選手と対戦することも多いですが、何か心掛けていることはありますか。

トレーニングはもちろんのこと、やはり大事なのは気持ちの部分だと思います。外国人選手からすると日本の選手は甘く見られてしまうことが多く、それに対して自分の気持ちが上回らないと勝てないため、絶対に負ける気はないという心構えで試合に向かっています。

―井上選手がチームの役割として心掛けていることはありますか。

チームスポーツといっても一人ひとりみな役割が違うので、まずは自分自身の役割を遂行する力が一番大事だと思います。僕だったら外国人選手との張り合いやスリーポイントシュートが役割となります。

みんなが得点を決めるチャンス！

―昨年のワールドカップでの日本チームの大躍進もあり、バスケットを始めたいと思っている子どもたちに、バスケットの魅力を教えてください。

バスケットは他の競技と比べて、個人個人が得点を決めるチャンスがあり、みんなが楽しめる瞬間が多いと思います。競技を始めたばかりの頃はシュートが入ったことから楽しさが芽生えてくると思うので、そのような意味ですごく面白いと思います。

―今年はパリ五輪もあり、より一層バスケットが注目されますが、井上選手の意気込みを教えてください。

昨年はワールドカップ、Bリーグ共に個人的に悔しい部分の多いシーズンだったので、本当に心残りでした。今年は、その悔しい気持ちをバネに、また挑戦できるチャンスとして、オリンピックの代表メンバーに残れるように頑張っていきたいと思います。

―世田谷区の子どもたちに向けたメッセージをお願いします。

世田谷区にはバスケットも含めていろいろなスポーツをする機会がたくさんあるので、遊びからでもいいから何かやってみてほしいと思います。その中でもチームスポーツは楽しみながら人との関わり方や自分の立ち位置・役割を決めていくことなど、自分のためになり成長できるので、ぜひスポーツには挑戦してほしいと思います。

問 教育総務課 ☎5432-2745 FAX 5432-3028